

Ⅱ 今後の対策

今回、紙面の都合で昨年（平成19年度）と比較するデータは掲載しておりませんが、昨年に比べ国や県のテスト結果は全体的に向上傾向にあります。

今後は、国・県・市の各テストや学習状況調査の結果を受け、以下を重点に学習指導などの工夫改善に取り組んでいきます。

- 1 各学校においては、これらのテスト結果を分析し自校の学力に関する課題を把握するとともに、学力向上のための年間計画を作成し、学力向上を重点目標にした年間を通じた計画的な取組をすすめます。
- 2 国語や算数・数学、英語といった特定の教科での取組に特化することなく、社会や理科など教科全体での取組で学力向上をめざす校内研修の充実に努めます。
- 3 小学校段階から基礎・基本の定着状況（達成率）が低い教科があったり、学年によって達成状況に差があったりすることから、各学校においては指導の重点を図る体制や方策を検討するとともに、各教科の達成率の向上をめざします。
- 4 「わかる授業」の実践に当たっては、児童生徒個々の定着状況などを把握したうえで授業づくりを行うことはもちろんのこと、授業で身に付けさせたい事項や定着度を把握する評価方法を工夫します。
- 5 教科で身に付ける基礎的基本的な知識・技能の習得を図る授業づくりを行うとともに、身に付けた知識・技能を活用する授業や活動を意図的に位置付け、学習したことが生活で実感できる、生活していることが学習に生きる授業づくりに取り組めます。
- 6 宿題や自主学習などの家庭学習の仕方・させ方に保護者等と連携して取り組み、学習習慣の定着を図ります。
- 7 いわゆる「学力の中1ギャップ」の解消に向けて、小学校段階から中学校段階への円滑な接続を図る小中連携の取組を進めます。
- 8 「佐伯市教育改革推進班」の取組と連携し、保護者や地域住民などのニーズを把握したうえで学力向上施策を構築していきます。

佐伯市の児童生徒に確かな学力を育成するため、各学校での取組はもとより、学力の実態や学校の取組などを保護者や地域住民の皆様に積極的に発信・公表し、皆様の知恵と協力を得ながら「学校・家庭・地域社会」が一体となって効果の上がる学力向上方策に取り組んでいきます。